

2020東扇島トライアスロン大会
運営についての要点（KnTU COVID-19対策）

このレジュメは、新型コロナウイルスの感染拡大に関し、JTUから発信されている「大会開催時のチェックリスト」に準拠し、東扇島大会の運営に当たって、実現させる要点を記したものである。

東扇島大会
実行委員長
高崎

A：全般

- 1.スタッフおよび参加者、応援者が遵守すべき項目をあらかじめチェックリストにしたものを会場内に掲示する。また、資料としてスタッフに配布する。
- 2.チェックしなければならない項目が遵守されているか、会場内を定期的に巡回、確認する。新型コロナウイルス対策委員（3名）を定め、対応する。
- 3.万が一、新型コロナウイルス感染が発生した場合に備え、すべてのスタッフ、参加者情報を保存しておく。大会後1カ月をめどとする。
- 4.新型コロナウイルス感染症を発症した場合、地域の対応方針について自治体の衛生局（保健所等）、救急担当病院とあらかじめ検討を持つ。
- 5.スタッフ数の必要十分な確保を行う。
- 6.会場すべてに、ソーシャルディスタンスを保った導線の確保、指導を行う。
- 7.会場内の「密」を調査するため、会场上空からドローンによる画像解析を行う。
- 8.この大会で使用する「マスク」は、感染ウイルス拡散を防止する効果の高い、不織布でできたものとする。

B：スタッフ、参加者、応援者への対応

- 1.スタッフ、参加者、応援者への事前説明を徹底する。
- 2.スタッフ、参加者が以下の条件にある場合、参加見合わせを求める。
体調が良くない場合、同居家族や近親者に感染が疑われる方がいる場合、観察期間を必要とされている国・地域から帰国後、14日が経過していない場合。
- 3.選手以外の観客・応援者は、キッズ・ジュニアは2名、そのほかの選手には1名限定とする。
- 4.「三密」の回避を心がけることを呼びかける。応援スペースには、2mごとに白線などを引いておく。
- 5.マスク、およびシールドの着用は必須。各所に、目に付くように消毒用エタノールを配置する。
- 6.選手の身体に触れなければならない場合、使い捨ての手袋を着用する。
- 7.大会後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、KnTU（事務局<杉浦>：070-3236-2277）に必ず連絡することをスタッフ、選手に願います。

8.参加者へのお願い。

「三密」回避、ツバやタンを吐かない、タオルなどは共用しない、飲料の回しのみはしない。大声での声援や指導などは行わない。

9.選手・スタッフは、必要以上に裸足にならない。

10.マスク、手袋着用後は、手指の消毒を行う。

11.厚生労働省のコロナ対策アプリケーション（COCOA）の活用を促す。また、神奈川県「感染防止対策取組書・LINEコロナお知らせシステム」へのQRコード読取りによる登録を、スタッフ、選手など来場者すべてに推奨する。

C：受付

1.消毒用エタノール（エタノール76.9～81.4%：日本薬局方）を目に付く場所に配置。

2.スタッフ、選手、感染者すべて、前日体温測定値と健康チェックシート提出し、現地で体温を測定する。どちらかが37度以上の場合、メディカルに健康相談。37.5度以上の場合参加辞退。

3.健康チェックシートは、大会後1カ月は保管。（その後、廃棄）

4.受付時の対面には、ビニールカーテンを用意。

5.受付時にはソーシャルディスタンスを守るよう配慮。

6.受付時に出場可能となった選手は、輪ゴムなどを腕につけて区別する。

7.「三密」を避けた受付運営に留意。

8.条件が許せば、前日受付も。

9.選手への提供物（レースナンバー、キャップなど）は、事前郵送を考える。

D：競技説明会

1.事前にオンライン競技説明会を用意。

2.当日はアナウンスのみで競技説明会。

E：開会式、表彰式、閉会式

1.基本的に、アナウンスのみで行う。

2.結果については、ホームページに掲載する。

F：スタート

1.キッズ・ジュニア・高校生・一般は、8秒ごとのタイミングスタートとする。電子音を8秒ごとに出し、波打ち際に反応ラインを設けて各自随時スタートとする。スタート待機時は、ソーシャルディスタンスを考えた列作りを行い、スタート直前までマスク着用する。スタート前にマスクを所定のゴミ捨てに回収する。

2.選手権レースは、最大37名の選手が1mおきに並んでスタートさせる。無理な場合は2列も考える。

3.ウォームアップについて、実現の方向で考慮する。

G：スイム

- 1.スイムコースは、キッズ、ジュニアは浜に平行したコース。スプリントディスタンスは、三角形のコース（135m・115m・125m）2周回とする。
- 2.キッズ・ジュニアのスイムコースは、浜と並行する安全なコースとする。

H：トランジション

- 1.ソーシャルディスタンスに配慮し、最低1mの距離を実現させる。（8台掛け→5台掛け）
- 2.トランジション内での選手同士の会話は、原則的に禁止する。
- 3.トランジションの設営に際し、バイクラックを消毒用エタノールで清拭する。
- 4.手指消毒の場所確保。
- 5.トランジションの配置をスタート順とは別の配置とする。密を避ける。
- 6.トランジションのタイムを総合タイムから除外する。密になる場所での落ち着いた行動の要請。選手権はトランジションタイムを除外しない。

I：バイク

- 1.選手権以外は、ドラフティング禁止。

J：ラン

- 1.対面を避けたコースを実現する。
- 2.選手間の飲食物のやりとりの禁止。

K：エイドステーション

- 1.スタッフが給水コップに水を注ぎ、選手が自ら取り上げる方法をとる。
- 2.エイドステーションにもエタノール消毒液を準備する。
- 3.エイドステーションスタッフは、マスクのほか使い捨て手袋も使用。手袋を使用しても、随時の手洗いを推奨。
- 4.マイボトルを検討。
- 5.ゴミは、早めに袋を縛って、ゴミの拡散を防ぐ。
- 6.水の提供者と、ゴミの回収者を分ける。

L：フィニッシュ

- 1.繰り返しのフィニッシュテープの使用は行わない。従って、各カテゴリーの1位のみへのフィニッシュテープの使用とする。
- 2.フィニッシュ後に選手にマスクを配布し、すみやかな着用を促す。
- 3.フィニッシュ後の水は、未開栓のペットボトルとする。
- 4.フィニッシュ後は、ソーシャルディスタンスを実現させるよう誘導する。

M：更衣室など

- 1.可能な限り、十分な広さを実現させる。
- 2.定期的な換気に努める。
- 3.選手などが触れる場所は、定期的に消毒用エタノールで拭き取る。

N：トイレ・手洗い場所

- 1.消毒用エタノールを配置。
- 2.ドアノブなどは、定期的に消毒用エタノールで拭き取る。
- 3.手洗い場所には、石けん、手拭きペーパー、蓋付きのゴミ箱を用意。

O：ゴミ廃棄

- ・マスク、手袋、使用後のティッシュペーパー、ペーパータオルなど、ゴミ袋に収納し、拡散を防ぐ。

P：メディカルチーム

- 1.医師3名、看護師4名をメディカルチームとして配置する。
- 2.「医療チームの防護服」は添付の通りとする。
- 3.メディカルで使用する「感染防御医療材料」は添付の通りとする。
- 4.「部署ごとの医療材料装備」は添付の通りとする。